



メーカー/ブランド名	車名	メーカー/ブランド名	車名
ダットサン DATSUN	17型フェートン 17 Phaeton	ニッサン NISSAN	スカイラインGT-R N1耐久 Skyline GT-R N1 Endurance
<p>1938年発売のダットサン17型は、タフで経済性に優れたモデルであった。外装は前年のダットサン16型を踏襲するが、フロントグリル中央の太い縦バーが17型の特徴。純綿や純毛が不足していた時代背景もあり、内装は簡素に仕上げられている。かつて成城大学自動車部が所有していた個体で、「5」で始まる登録番号を生かして2022年に車検を再取得し、再び公道走行が可能となった。</p>		<p>1989年に復活を遂げたスカイラインGT-R (BNR32型)は、翌1990年からグループA・グループNの両方へ実戦投入された。展示車はベース仕様車「GT-R NISMO」の最終生産号車で、当時の実験主担・渡邊衛三氏がテストドライバーの評価能力向上を狙いにN1耐久へ参戦した個体。ドライバー体制は「現代の名工」加藤博義氏、松本孝夫氏、神山幸雄氏であった。2022年、名車再生クラブにてフルレストアされた。</p>	
			
メーカー/ブランド名	車名	メーカー/ブランド名	車名
ホンダ HONDA	RA271	ホンダ HONDA	T360
<p>Hondaは1964年1月、世界最高峰のF1への出場を宣言。前年に軽トラックとスポーツカーの発売を果たしたに過ぎない、四輪車最後発メーカーの無謀とも思える挑戦であった。宣言からわずか7カ月後のドイツGPにて、エンジンからシャシーまですべて自前で開発したF1マシン・RA271でデビューを飾るが、その年は3戦中2度のリタイアという惨憺たる結果だった。こうしてHondaのF1への挑戦は幕を開けたのだ。</p>		<p>Honda初の市販四輪車。スポーツカーSシリーズと基本設計を同じくする水冷直4のDOHCエンジンを搭載し、356ccで30PSと当時の小型乗用車にも匹敵するパフォーマンスを誇っていた。エンジンはミッドシップにマウントされ運動性能も軽トラックとは思えないほどの高いレベルであった。</p>	
